

- きめ細かな温度管理で健苗を育成しよう！
- 未耕起のほ場は排水対策を行い、乾燥を促そう！
- 田植えは、天気の良い日を選んで行き適期内に終えよう！
- 水管理は、日中止水・夜間かんがいの基本を守ろう！

<育苗管理>

丈夫な苗づくりのため、天候に合わせたきめ細かな温度・水管理に努める。田植え5～7日前頃から、降霜や強風が予想される時以外は、夜間もハウスやトンネルを開放して外気に慣らす。

<本田作業>

- 1 乾燥していないほ場は、溝切り等の排水対策を行う。
- 2 田植えは、温暖な日を選び、5月25日頃までに終了する。
- 3 苗の活着を促進するため、日中止水・夜間かんがい（夕方又は早朝に入水）の基本を守り、掛け流しは行わない。また、温暖な日は2～3cm程度の浅水で水温の上昇を図り、低温の日は苗が冠水しない5cm程度のやや深水にして保温する。
- 4 除草剤は、前年発生した雑草を考慮して選定し、使用基準を守って使用する。除草効果の維持と水質汚染防止のため、散布後7日間は落水や掛け流しは行わない。

<病害虫の防除>

- 1 例年いもち病が発生するほ場では、育苗箱施用剤等により予防防除する。
- 2 補植用苗を放置したままにするといもち病の発生源となるので、補植が終わったら直ちに処分する。
- 3 斑点米カメムシ類の生息地となる畦畔のイネ科雑草は、開花・結実する前に刈り取る。

<農薬の適正使用>

育苗箱に農薬を使用する場合は、こぼれ落ちた農薬が後作の作物に吸収されないように育苗箱の下にビニールシートなどの無孔シートを敷くか、育苗ハウスの外で作業する。

<農作業事故の発生防止>

- 1 農業機械の点検・整備を徹底し、点検時にはエンジンを止める。
- 2 1人での作業は避けるとともに、田植えは疲労が蓄積しやすいので、農作業時は適度に休息をとりながら実施する。

報道機関用提供資料	
担当課 担当者	農林水産部 農産園芸課 稲作・畑作振興グループ 総括主幹 八島敏行
電話番号	直通 017-734-9480 内線 5073
報道監	農林水産部 次長 栗林 豊 内線 4967